

I. 活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成19年(2007年)1月1日)

	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
伊勢原		
30年	ほぼ0%~0.002%	ほぼ0%~0.003%

	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
有馬-高槻		
50年	ほぼ0%~0.05%	ほぼ0%~0.06%

※活断層評価備考

・ここに掲載しているものは、再計算の結果、発生確率値の表記に変更もしくは修正のあったもの。

II. 海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成19年(2007年)1月1日)

相模トラフ	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
大正型		
平均発生間隔	200-400年	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.21-0.41	0.21-0.42
10年	ほぼ0%~0.06%	ほぼ0%~0.07%
20年	ほぼ0%~0.3%	ほぼ0%~0.3%
30年	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~1%
40年	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~3%
50年	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~6%
元禄型		
平均発生間隔	2300年	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.13	0.13
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

日本海東縁部	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
北海道北西沖		
平均発生間隔	3900年	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率		2100年(0.54)は概数なので更新せず
10年	0.002%~0.04%	0.002%~0.04%
20年	0.004%~0.07%	0.004%~0.07%
30年	0.006%~0.1%	0.006%~0.1%
40年	0.008%~0.2%	0.008%~0.2%
50年	0.01%~0.2%	0.01%~0.2%
北海道西方沖		
平均発生間隔	1400-3900年	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

南海トラフ	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
南海地震		
平均発生間隔	前回の地震から次の地震までの推定間隔90.1年(平均:114.0年)	
ばらつきα	0.20-0.24	
経過率	0.66	0.67
10年	10%程度	10%程度
20年	30%程度	30%程度
30年	50%程度	50%程度
40年	70%程度	70%程度
50年	80%-90%	80%-90%
東南海地震		
平均発生間隔	前回の地震から次の地震までの推定間隔86.4年(平均111.6年)	
ばらつきα	0.18-0.24	
経過率	0.71	0.72
10年	10%-20%	10%-20%
20年	40%程度	40%程度
30年	60%程度	60%-70%
40年	80%程度	80%程度
50年	90%程度	90%程度

北海道南西沖	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.009-0.02	0.01-0.03
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
青森県西方沖		
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
山形県沖		
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.17以下	0.17以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

三陸沖から房総沖	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
三陸沖北部		
平均発生間隔	97.0年	
ばらつきα	0.11-0.24	
経過率	0.39	0.40
10年	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.2%
20年	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~2%
30年	0.06%-8%	0.09%-9%
40年	2%-20%	3%-20%
50年	20%-40%	20%-40%
三陸沖南部海溝寄り		
平均発生間隔	104.5年(105年程度)	
ばらつきα	0.19-0.24	
経過率	1.04	1.05
10年	30%-40%	30%-40%
20年	60%-70%	60%-70%
30年	80%-90%	80%-90%
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度以上	90%程度以上

新潟県北部沖	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつきα	0.17-0.24	
経過率	0.04以下	0.04以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

千島海溝(1/2)	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
十勝沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつきα	0.24-0.32	
経過率	0.03	0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%~0.008%	ほぼ0%~0.01%
30年	0.04%~0.7%	0.06%~0.9%
40年	2%-6%	2%-7%
50年	10%-20%	10%-20%
根室沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつきα	0.24-0.32	
経過率	0.45	0.46
10年	2%-6%	2%-6%
20年	10%-20%	10%-20%
30年	30%-40%	30%-40%
40年	60%程度	60%程度
50年	70%-80%	70%-80%

千島海溝(2/2)	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
色丹島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつきα	0.24-0.32	
経過率	0.50	0.52
10年	4%-9%	4%-10%
20年	20%-30%	20%-30%
30年	40%程度	40%-50%
40年	60%程度	60%-70%
50年	80%程度	80%程度
択捉島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつきα	0.24-0.32	
経過率	0.58	0.60
10年	9%-10%	10%程度
20年	30%程度	30%-40%
30年	50%程度	50%-60%
40年	70%程度	70%-80%
50年	80%-90%	80%-90%

宮城県沖	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
平均発生間隔	37.1年	
ばらつきα	0.177	
経過率	0.74	0.77
10年	50%程度	60%程度
20年	90%程度	90%程度
30年	99%	99%
40年		
50年		

(参考)想定東海	2006年1月1日時点の評価	2007年1月1日時点の評価
平均発生間隔	118.8年(参考値)	
ばらつきα	0.20	
経過率	1.27	1.28
30年	87%(参考値)	87%(参考値)

※海溝型地震備考

・ここに掲載しているものは、再計算を行ったもの全て。

・黄色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったもの。

・宮城県沖は、評価文中で

『これらを踏まえ、地震発生の可能性は、年々高まっており、今後20年程度以内(2020年頃まで)に次の地震が起こる可能性が高いと考えた。』

として、30年以内より長期の発生確率の評価を行っていない。